



「東広島の黎明展」「コレクション展」の開催

1 概要

G7 広島サミットにあわせ、東広島市立美術館において、出土文化財と美術作品の展示を同時開催する。

「東広島の黎明展」では、国重要文化財に指定される広島県安芸国分寺跡土坑出土品の特別展示をはじめ、市内に所在する国・県・市指定文化財を中心とした文化財を展示して、東広島市の旧石器時代から近代まで概観する。

コレクション展「Culture: たがやし、育む 東広島とカルチャー／伝統と革新の備前焼」では、近代から現代までの東広島ゆかりの美術や、中国地方の伝統工芸の一つであり、その歴史は須恵器までさかのぼることができる備前焼を特集展示する。

これら出土品や美術作品をとおして、国際学術研究都市東広島市の「黎明」ともいえる、歴史や文化を紹介することにより、東広島市に興味と関心を寄せてもらう契機としたい。

2 各展示の内容

・東広島の黎明展

期間：4月5日(水)～6月25日(日)

場所：東広島市立美術館 2階展示室B

・コレクション展

期間：4月5日(水)～6月25日(日)

場所：東広島市立美術館 3階展示室A

※そのほか詳細は別紙のとおり

3 その他（関連イベント）

- ・歴史バスツアー（市ブランド推進課）に合わせた展示解説を予定
- ・ギャラリートークを予定 ※市立美術館学芸員及び文化課職員による展示解説
 - 4月28日(金)…黎明展とコレクション展
 - 5月20日(土)…コレクション展
 - 5月26日(金)…黎明展
 - 6月23日(金)…コレクション展
- ・フォトイベント 講師：藤岡亜弥、協力：ひとむすび

「東広島の黎明展」開催要項

趣 旨

古くから穀倉地帯として知られ、現在まで連綿と発展し続けている学術研究都市『東広島市』。

ここには、「三ツ城古墳」「安芸国分寺跡」「鏡山城跡」、日本の 20 世紀遺産 20 選「西条の酒造施設群」といった国の内外に誇れる遺産が、数多く存在する。

これらは、現在の東広島市の礎を築いた人々の活動の証しであり、東広島市の“明け方(=黎明)”を彩る文化財である。

このたび、その黎明期ともいえる古から続く遺跡や出土品の中から、市内に所在する国・県・市指定文化財を中心とした文化財を紹介する展覧会を開催することにより、東広島市に興味と関心を寄せてもらう契機とするものである。

また、今回の展覧会では、令和 4 年 11 月 18 日、国の文化審議会において国重要文化財（美術工芸品：考古資料）に新たに指定するよう答申が行われた「広島県安芸国分寺跡土坑出土品」をあわせて特別展示する。

1 名 称

「東広島の黎明展」

2 開催期間・会場等

期 間：令和 5 年 4 月 5 日（水）～6 月 25 日（日）

会 場：東広島市立美術館 2 階展示室 B

観覧料：無 料

3 主な展示

- ・旧石器時代～弥生時代（市重文横田 1 号遺跡出土品・市重文大槇 3 号遺跡出土品）その他：西ガガラ遺跡など
- ・古墳時代（国史跡三ツ城古墳、県重要文化財白鳥古墳出土品、市史跡保田古墳群・市史跡岩幕山古墳・市史跡塔ノ岡古墳・市史跡宮ヶ迫古墳・市史跡山王古墳群）
- ・古代 1（市重文西本 6 号遺跡出土品）
- ・古代 2＝特別展示（国史跡安芸国分寺跡、国重文安芸国分寺跡土坑出土品）その他：重文指定以外の土器、軒丸瓦など
- ・中世（国史跡鏡山城跡、国重文福成寺本堂内厨子及び須弥壇の関連として福成寺旧境内遺跡出土品、県史跡平賀氏の遺跡の関連として御土居遺跡）その他：薬師城跡・城仏土居屋敷跡など市内城館遺跡出土品
- ・近世・近代（市史跡小谷焼窯跡、市重文赤瓦製祠、市重文旧石井家住宅の関連として四日市遺跡出土品）

4 展示品の借用（※予定）

- ・西ガガラ遺跡、県重文白鳥古墳出土品、市重文赤瓦製祠、福成寺所有紀年銘鬼瓦等

5 その他

- ・歴史バスツアー（市ブランド推進課）に合わせた展示解説を予定。
- ・市立美術館「コレクション展」のギャラリートークとコラボ企画を予定。
- ・木簡や墨書土器等の展示方法に制約のある資料は、できるだけ令和 5 年 5 月 19～21 日に開催される「G7 広島サミット」の期間に集中。

「東広島の黎明展」主な展示品



横田 1 号遺跡出土品 (市重文)



白鳥古墳出土品 (県重文)



西本 6 号遺跡出土品 (市重文)



三ツ城古墳出土品



広島県安芸国分寺跡土坑出土品 (国重文)



赤瓦製祠 (市重文)



四日市遺跡出土、禁裏御用の器

コレクション展

「Culture: たがやし、育む 東広島とカルチャー／伝統と革新の備前焼」

趣 旨

「東広島の黎明展」では、「広島県安芸国分寺跡土坑出土品」が重要文化財に指定されたことを契機に、東広島市内の古代から近代までの文化財を一堂に紹介する。同時開催となる本展では、2022年度新収蔵作品を含む当館コレクションのなかから、近代から現代までの東広島ゆかりの美術を中心に、現代までのカルチャーを育み築いた作家たちや、中国地方の伝統工芸の一つであり、その歴史は須恵器までさかのぼることができる備前焼を特集展示する。

1. 会 期

2023年4月5日(火)ー6月25日(日)

2. 開館時間

9:00ー17:00 [ただし4月28日(金)、5月26日(金)、6月23(金)は19:00まで開館]

3. 会 場

3F 展示室 A

4. 観 覧 料

一般 300 円、大学生 200 円*、高校生以下無料*

*学生証を提示/20名以上の団体は2割引き／後期高齢者医療被保険者証・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けられている方は、受付で各手帳等をご提示により減免。(スマートフォンアプリ「ミライロ ID」利用可能)

5. 主 催

東広島市立美術館

6. 出品作家(予定)

永瀬義郎、中田早、小野忠重、友安一成、横山隆雄、大久保博、林林男、難波平人、岡崎紀、久保田辰男、小平胖可、其阿弥赫土、平田周子、藤岡亜弥、木村芳郎、今井政之、伊勢崎淳、伊勢崎満、隠崎隆一、山本出、金重有邦、金重晃介、森陶岳ほか

7. 関連イベント(予定)

- ・ギャラリートーク 夜間開館時実施
- ・フォトイベント 講師：藤岡亜弥(出品作家)

8. 主な出品作品

第1章「東広島とカルチャー」



南薫造 《松高憲三氏像（下絵）》 1947



永瀬義郎 《浪漫》(版画集「浪漫」より) 1978



今井政之 《象嵌彩窯変でべら花壺》 2000

第2章「伝統と革新の備前焼」



伊勢崎淳 《窯石》 2014



伊勢崎満 《備前矢筈口耳付水指》 2004



隠崎隆一 《備前広口花器》 1989